

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年11月17日～2018年11月23日の推移】

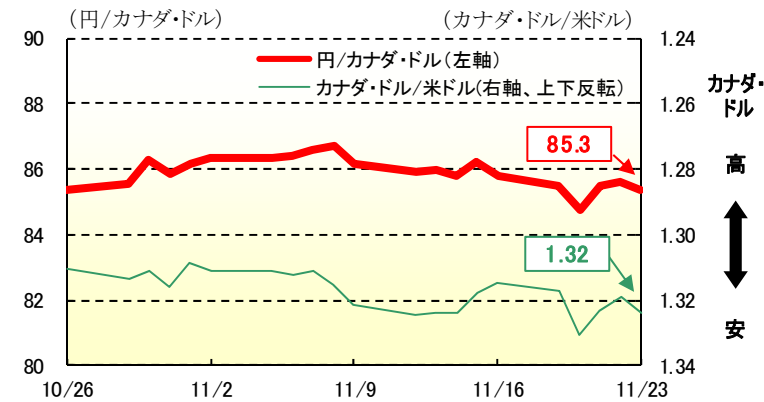
【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円で下落しました。カナダ5年国債利回りは横ばいとなりました。

原油価格が大幅に下落したことや、カナダ銀行(中央銀行)の高官がインフレターゲットなどに関する見直しの可能性に言及したことで、今後の利上げペースが鈍るとの見方が広がったことなどを背景に、カナダ・ドル円は下落しました。上述の要因により、カナダの金利は、低下圧力が強かったものの、米国金利が堅調に推移したことなどを背景にほぼ横ばいとなりました。

また先週はCPI(消費者物価指数)が発表され、予想よりも強い結果となりました。ただし、原油価格が下落基調にあることから、今後のCPIは減速すると予想されています。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年10月26日～2018年11月23日)



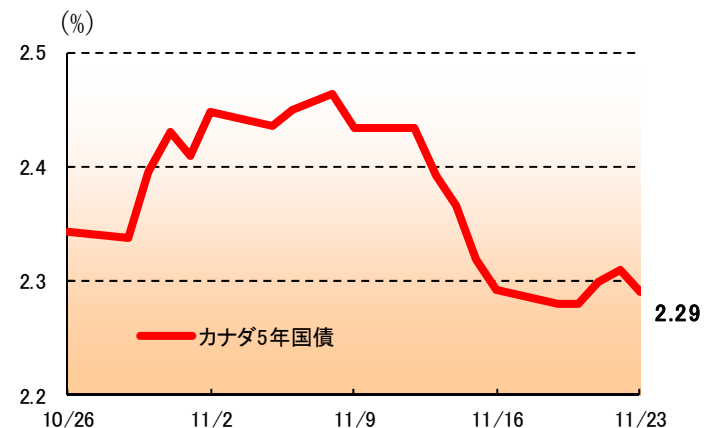
※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【2】今週の見通し

今週、カナダでは2018年9月分の月次GDP(国内総生産)が発表されます。前年同月比では2.3%の成長が見込まれています。

足元では株式市場は軟調に推移しており、投資家のセンチメントが落ち着いていないことは、カナダ・ドル、カナダ金利の上昇圧力を抑える要因となりそうです。また、サウジアラビアの原油生産量や米国のシェールオイルの生産量が過去最高水準になっていることなどを受けて、原油の供給過剰懸念が高まっています。そのため、原油価格の下落圧力が強まっており、カナダの金利、通貨の上値を抑える要因になることが予想されます。

【カナダ 金利推移】 (2018年10月26日～2018年11月23日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>